

平成27年度 事業報告書

- (1) 学校目標に基づく優先課題
- (2) 教育の充実
- (3) 学生募集
- (4) 学生支援
- (5) 就職支援
- (6) 要員・能力開発・組織編成
- (7) 施設・設備
- (8) 武蔵野ネットワーク
- (9) 地域貢献

専門学校武蔵野ファッションカレッジ

(1) 学校目標に基づく優先課題

①平成 27 年度学校目標

学生の『教育内容における満足度向上』

卒業時にとるアンケート結果から【専門教育と社会人基礎力を融合した教育プロセス】としての在学 2 年間に満足していると判断できた。

次年度はより一層、学生が自らの成長を実感し喜びを得られる運営を目指していく。

②同目標達成のための、平成 27 年度優先課題への取り組み

平成 27 年度の学校目標達成の為に以下の施策を計画し実施した。

施策 i) 非常勤講師の学園目標及び学校目標理解のための講師会を開催

平成 27 年 3 月 23 日に講師会を開催し、学園目標・学校目標についての共通認識を作る場となった。講師陣からも「講師間の情報交換に必要な場であり有意義な場であった」という意見をいただき、協力体制を強化することにもなった。

施策 ii) 学園目標である『惹き付ける授業』のノウハウを学ぶ教員研修を計画し実施

平成 28 年度の準備として平成 27 年 2 月 25 日にゲーミフィケーションについての研修会を実施した。ゲーミフィケーションは一般に学生が自ら学ぶというプラス面が強調されがちだが、一部の学生にとっては授業の取り組みが消極的になりクラス内で学生一人一人の成長にばらつきが出るというマイナス面があることも知ることができ、各教員の導入準備として有効な機会となった。

施策 iii) 『惹き付ける授業』のモデル授業となる科目を 2 科目設定し運営

本校が提示する【専門教育と社会人基礎力を融合した教育プロセス】の中心科目である『ショップマネジメント 2』『incubate collection』をモデル授業として設定した。『ショップマネジメント 2』では営業成績でのグループ間競争に、『incubate collection』では各自の責任ある役割に、学生たちは強い意欲を示し取り組めた。

施策 iv) 『惹き付ける授業』の検証するアンケートを実施し、生徒の満足度を測る

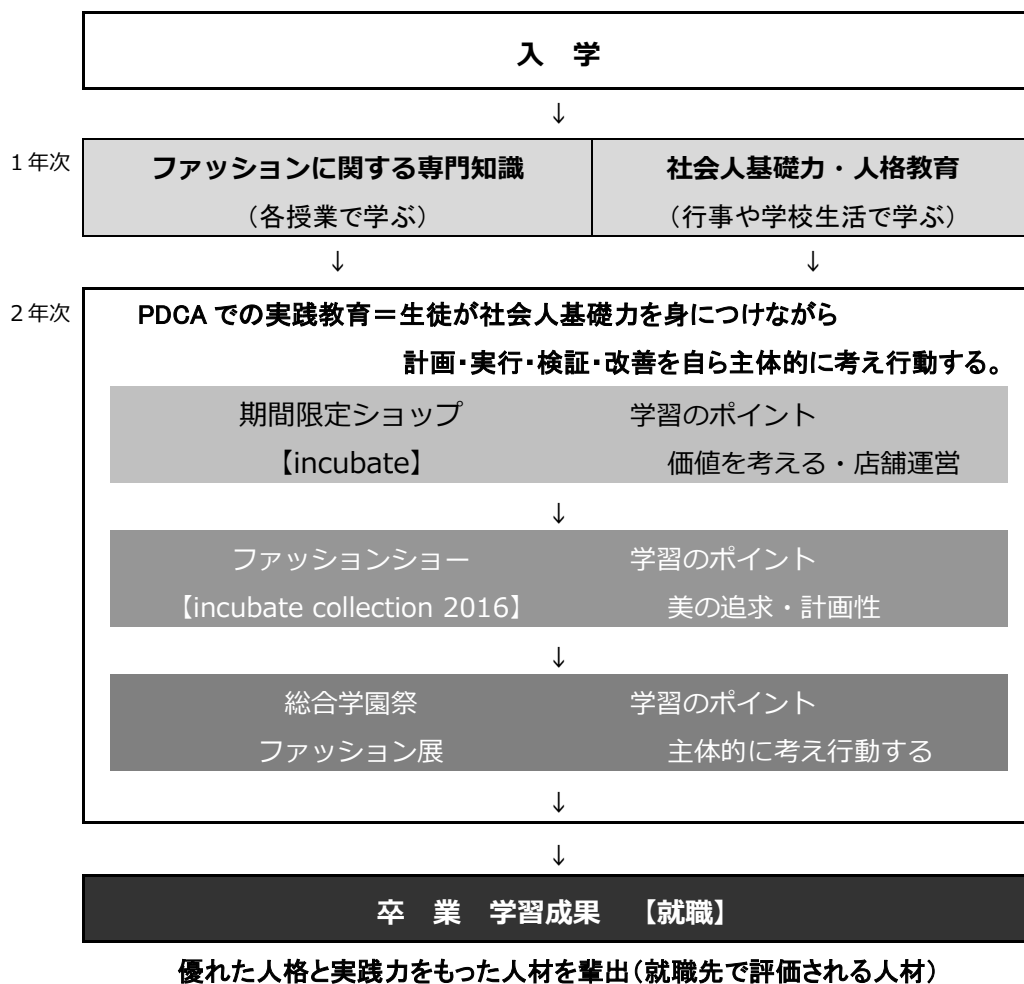
施策 iii) で設定した科目は満足度の高いアンケート結果となった。

施策 v) 学校、学科のルーブリック（基準）の導入に着手

試験的にルーブリックは導入し、向上させていく段階となった。評価の基準となる学校・学科の教育到達目標を明確化するために『ディプロマ・ポリシー』『カリキュラム・ポリシー』『アドミッション・ポリシー』を明文化し学校教育の根幹を整え本格導入に着手していく。

(2) 教育の充実

【 専門教育と社会人基礎力を融合した教育プロセス 】



学習到達目標 (ラーニング・アウトカム)

優れた人格と実践力をもった人材を生み出す。

実践力とは

本校ではファッションの専門知識と技術・美意識・計画性・コミュニケーション力・モチベーション、働く上で必要な力の総合力と定義する。

教育手法 実践教育 ～ P D C Aサイクル (plan-do-check-act) の実践

13年前より実践教育を掲げ『期間限定ショップ【incubate】』『incubate collection ファッションショー』『卒業作品展』を複合的カリキュラムの成果発表としてP D C Aサイクルに則って行ってきた。その効果により年々作品のレベルは向上し、カジュアルファッションやリアルクローズの表現では一定の成果を上げるものとなっている。

近年の成果

期間限定ショップ【incubate】においては、平成25年度より導入したグループ間の競争を通して『目標の達成のために何をすべきか』を主体的に考え行動していく『前に踏み出す力』が身につく、平成26年度ではグループ間で議論し、協力して進めていく『チームで働く力』が身につくようになった。平成27年度ではルーブリックを導入することで、個人ごとの目標到達状況が分かるような実践教育の場となり、年々進化している。

『incubate collection ファッションショー』では“時代感”を意識した作品作りとショーでの見せ方において競合校との違いを明確にし、『武蔵野のスタイル』が形になってきた。業界関係者からも賞賛され、自信を持って見せられるレベルに到達してきている。

(3) 学生募集

①入学定員及び学生数（平成 27 年 5 月 1 日現在）

科	修業 年限	入学 定員	入学 者数	収容 定員	平成 27 年度在籍者数		
					計	男	女
アパレルプロフェッショナル科	2 年	30	18	60	29	4	25
ファッションスタイリング科	2 年	60	44	120	78	19	59
ファッションマスター科	1 年	10	0	10	0	0	0
専門学校武蔵野ファッションカレッジ		100	62	190	107	23	84

②オープンキャンパス等

体験入学参加者の感想から単なる服作りの技術指導ではなく、社会で働く事を念頭に置いた学校運営で真摯に教育を行っている学校であると認識され、競合校と比較しても教育の質について優位であると認知されてきている。そして、その成果として微増ではあるが出願者も増えている。

施策

オープンキャンパス歩留率・出願者数を高める 2 つの施策を実施した。

- i) 在校生から学校の魅力が伝わる運営
- ii) 教員の個別相談能力の向上

成果

新入生に対して学校選びについての調査アンケートを実施したところ、在校生とのふれ合いが学校を理解するために役立ったという結果が得られている。学校教育の成果は教育を受けた学生自身を見れば分かるものなので、近年の学校目標に教育の充実に関する内容を掲げ在校生の質向上に力を入れている。施策として掲げた『在校生から学校の魅力が伝わる運営』は学校の魅力の伝え方として効果的であると判断し今後も改善しつつ力を入れるべき施策であると確信している。

また、もう一つの施策として実施した『教員の個別相談能力の向上』に関しては体験入学参加者の希望と教員個人の強みをマッチさせた組み合わせで個別相談を実施した。それにより充実した相談となり、より一層、学校の魅力が伝わったと考えている。

(4) 学生支援

①退学率

退学抑止の施策として『学習相談の強化』や『学費納入の問題の早期相談への声かけ』を行い丁寧に対応した。

学生本人の健康問題や保護者の失業・離婚による経済的困窮が学費未納の原因となることが多く、学校としての対応の限界を痛感している。今後も抑止の努力をしていく。

②学生満足度

卒業時に満足度を測るアンケートと面談を実施した。

両学科とも主な学校行事に関して満足度は高いと判断できる。教員の対応や武蔵野での学んだことへの意見でも、ほとんどの学生が面談では満足していると述べているので概ね問題はないと判断している。

③資格取得

平成 27 年度 検定試験合格率

検定	級	実施日	受験者数	合格者数	学内合格率	全国平均
ファッションビジネス能力検定	3 級	6 月 20 日	57	48	84.2%	
	2 級	6 月 20 日	27	13	48.1%	53.3%
販売士	2 級	9 月 26 日	51	29	56.9%	54.2%
パターンメイキング技術検定	3 級筆記	6 月 6 日	10	10	100.0%	83.0%
	3 級実技	9 月 5 日	10	1	10.0%	67.5%
フォーマルスペシャリスト	準 2 級	1 月 20 日	25	21	84.0%	81.1%
洋裁技術認定	初級	1 月 17 日	12	12	100.0%	
	中級	1 月 17 日	4	2	50.0%	
ファッションスタイリスト検定	ジュニア	7 月 23 日	84	62	73.8%	

就職試験において、資格取得は努力の成果として判断する企業が多くなっている。その為、学校では資格取得を推奨している。

成果としては、販売士の合格率が全国平均を上回っていることである。キャリアアップに有利になった卒業生の実例を紹介したことで学生の学習意欲が向上したことが理由と捉えている。

実技合格率が低い試験に関しては、学校として大きな問題であると考えており、不合格の原因を再度検証し次年度の受験対策内容を見直す必要がある。

(5) 就職支援

①就職率

科	修業年限	平成 26 年度					平成 27 年度				
		卒業 者	就職希望者		進学・ その他	就職 率	卒業 者	就職希望者		進学・ その他	就職 率
			就職 者	未決 定				就職 者	未決 定		
アパレル プロフェッショナル科	2年	6	6	0	0	100.0%	10	3	1	6	75.0%
ファッション スタイリング科	2年	28	26	0	2	100.0%	31	29	1	1	96.7%
ファッション マスター科	1年	5	5	0	0	100.0%	0	0	0	0	—
専門学校武蔵野 ファッションカレッジ		39	37	0	2	100.0%	41	32	2	7	94.1%

* 就職希望者＝就職者＋未決定

* 就職率 (%)＝就職者÷就職希望者

就職率目標 就職希望者に対して 100% →【実績 94.1%】

残念ながら希望者全員の内定には届かなかった。就職が決まらなかった要因としては学生本人の意欲が不足し、活動が消極的だったことが挙げられる。就職に関して適切な判断ができない学生が出た際の指導をもう少し強化したい。

②就職先

平成 27 年度はファッション業界でも経団連の採用指針により採用活動解禁日が平成 27 年 3 月 1 日からとなり例年より 2 ヶ月ほど遅いと言われていたが、実際には各企業とも若い労働力確保に必死なこともあり、例年よりも早く内定を出す企業が多かった。

特に自社店舗を持つ大手企業を中心に、各店舗の労働力確保を目的に販売職の採用に大変積極的であった。しかし、採用基準を落としてまで採用をする企業はなく、採用試験は社会人基礎力と仕事への意欲を測るものとなっており、十分な採用試験対策をして臨まないと内定獲得はできない状況である。

一方、企画・生産系企業の求人は低調だが、服の『お直し』に特化した業務を行っている企業に関しては求人が増えてきており、労働力を外国人労働者に頼っていた日本の縫製工場で『日本人の技術者を育てたい』という意気込みを持つ企業が現れ始め、学生に意欲があれば是非受け入れたいとする企業が出てきている。

③説明会・セミナー・面接指導等

卒業生懇談会【実施目的：職業を知る】

- 11月5日 販売職（株式会社レイ・カズン 笛木愛友）
- 12月3日 営業職（REJOUR代表 佐久間守平）
- 2月18日 パタンナー（株式会社ファッション須賀 藤裕美）
- 2月18日 スタイリスト（株式会社H 千葉友香子）
- 2月18日 OEM企業（フリー 中村海人）

学内企業説明会【実施目的：企業を知る・求める人材を知る】

- 3月9日 株式会社レイ・カズン
- 3月14日 株式会社三陽商会
- 3月15日 株式会社オンワード樫山
- 3月15日 株式会社ジャパンイマジネーション

(6) 要員・能力開発・組織編成

①教員数（平成27年5月1日現在）

	常勤教員等				非常勤 教員	学生	学生数÷ 常勤教員等
	校長	教員	教務 職員	計			
男性	0	3	0	3	7	23	—
女性	1	5	1	7	8	84	—
合計	1	8	1	10	15	107	10.7

* 教員の人数は、専修学校設置基準が定める要件を満たす者を算定しています。

②要員

近年の課題であったファッションの専門知識を学ぶ科目の充実を担う人材を採用した。

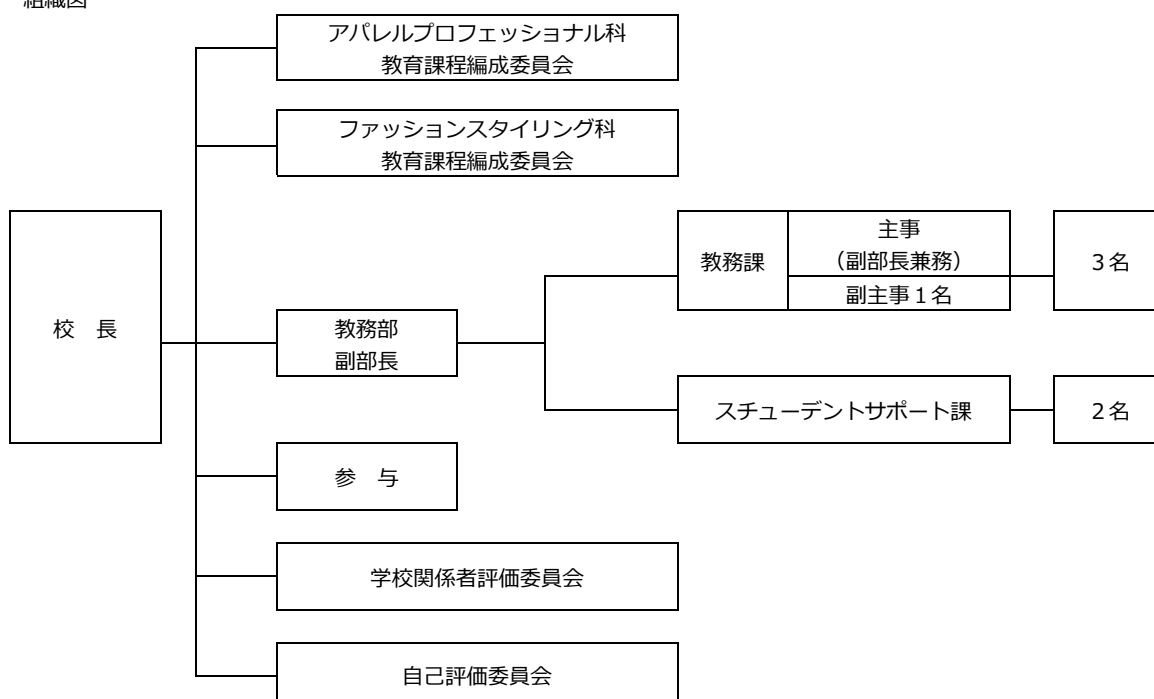
③能力開発

担当科目に役立つセミナー等の開催情報を収集・参加していくことを各教員の職務として課し、能力開発を自らの意志で行うようにした。

担任業務や行事運営等についての能力向上はOJTで行った。報告・連絡・相談が円滑に行うことで反省・改善行動が適切に行われ、業務能力向上につながった。

④組織編成

組織図



各課や委員会等の主な業務は以下とする。

【教務課】学習に関する運営と管理

【スチューデントサポート課】生徒の問題についての相談

【教育課程編成委員会】外部委員と教員で構成し各科の教育内容について検討する

【学校関係者評価委員会】外部委員と教員で構成し学校運営の適正について評価する

【自己評価委員会】教員で構成し、自己点検自己評価報告書をまとめる

その他の部会

【就職指導】両学科2年担任と教務部副部長が担当

【各行事】教員が2～3名程度のユニットを組み運営にあたる

課題

教員としての能力と学校運営や募集活動もこなせる幅広い業務運営能力が求められる。また、時代の変遷に伴い学生を送りだす先のファッション業界の業務も変わり、学生が身につけるべき必要な能力も変わってきている。その変化に合わせて教育ができるよう、教員も進化していかななくてはならない。柔軟性を持って真摯に業務に当たることが必要である。

(7) 施設・設備

①平成 27 年度に营造・修繕・購入等を行った施設・設備

時 期	場所・内容・目的
平成 27 年 4 月	3 号館 102 教室 リニューアル
平成 27 年 4 月	3 号館 102 教室 O A、LAN 工事
平成 27 年 4 月	3 号館 102 教室 N A S 設置
平成 27 年 7 月	職員室空調交換
平成 27 年 9 月	内容：ミシン 30 台 場所：3 号館 201 教室 理由：既存設備を新規機種に入れ替え
平成 27 年 9 月	内容：ロックミシン 10 台 場所：3 号館 201 教室 理由：既存設備を新規機種に入れ替え

(8) 武蔵野ネットワーク

①卒業生との連携

数年前に比べると近年の卒業生は学校を訪ねてくる事が多くなってきている。例年行っている期間限定ショップ、ファッションショー、学園祭には引き続き案内状を送付し、同窓生が集まる場としていく。

平成 27 年度の卒業生案内

期間限定ショップ【incubate】 実施時期：平成 27 年 9 月 12 日～27 日
incubate collection 2016 実施時期：平成 27 年 11 月 28 日
後藤学園総合学園祭 ファッション展 実施時期：平成 28 年 2 月 6 日～7 日

②父母との連携

学校での生活から就職まで関心のある保護者から、入学後は生徒自身で管理することを方針としている放任の保護者等、保護者の学校や教育への関心度にはばらつきがある。生徒の在学中の生活リズム作りや学費の安定した納入など、生徒が充実した学校生活を送るには家庭の協力が必要不可欠である。生徒に問題が発生、または問題の兆候が出てきた際には速やかに保護者へ連絡し、支援体制の協力を求めている。

(9) 地域貢献

地域貢献として豊島区や公益財団法人としま未来文化財団からの協力依頼に対し、学校の特性を生かした協力を継続している。

豊島区への協力実績

平成 15 年～平成 27 年 よさこい祭り 審査協力

平成 23 年 豊島区文化祭でのファッションショー出演協力

平成 23 年 オーケストラの衣装デザイン・製作協力

平成 26 年～ソメイヨシノ桜の観光大使選出のコンテストの審査協力

平成 28 年 豊島区国際アート・カルチャー特命大使に片桐芳子校長が就任